

目次

- 2 **巻頭エッセイ**
快乐教汉语・学汉语
- 4 **過去問に学ぶ**
4級日文中訳問題ワンポイント・アドバイス
- 6 **語彙をふやそう**
植物(一) 樹木類
- 8 **看图学惯用语**
絵で見る慣用語(11)
- 10 **紛らわしい文法表現**
“X没有YW”と“X有YW”
- 12 **成語の話**
数詞成語と成語の図像化
- 14 **中国語でどういう？**
いらっしゃいませ！
- 15 **読者の広場**
中国語学習
中国語学習は楽しい

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

快乐教汉语・学汉语

日本中国語検定協会理事・早稲田大学 村上公一

大学で中国語を教え始めて約30年、いかに教えるべきかずっと悩み続けている。

友人と一緒に初めてオリジナルの教科書を作ったのが約25年前。授業時間である90分間、教員と学生がどのような活動をするのか、自分なりにイメージして、内容や構成を考えた。教室では教科書に基づいて自分自身で作った本文提示用の模造紙や単語カードを使って、当初のイメージ通りの授業を楽しく行うことができた。これが病みつきとなり、その後いろいろな教材を作ってきた。

1990年代後半になるとコンピューターで中国語の文字や音声を提示できるようになったので、さっそく教科書をコンピューター教材化してみた。今では当たり前のことだが、当時は、文や単語をクリックすると発音されたり、ピンインや日本語訳が現れたりするのは本当に衝撃的だった。せっせと音声や文字を入力し、それまで使っていた本文提示用の模造紙や単語カードを全てコンピューター画面をプロジェクタで映しだす形に変えた。授業の前日はほぼ徹夜作業になったが、私自身も楽しく、また学生にとっても初めて経験した新しい形の授業は新鮮だったようで、教室が生き生きとしたものになった。

中国語では発音（ピンイン）の学習がなかなか難しい。口や舌の動きをアニメで確認しながら何度も発音を聴き、さらに自分の音声を録音して聴き較べることができるような教材があればいいなと思い、CD-ROM教材を作った。授業をコンピューター教室で行っていたので、発音授業のほとんどを学生がPCで個別学習する時間に充てた。彼らは楽しく取り組んでいたし、学習効果もあった。

同じころ、中国語で書かれたWebサイトも充実しはじめ、インターネットを介して大陸や台湾の中国語空間に直接入り込めるようになった。コンピューター教室のPCはインターネットに繋がっている。それなら学生に自由に中国語Webサイトを読んでもらい、授業中は質問があった時に答えるだけとし、授業終了時に当日読んだサイトについての報告を提出してもらい、翌週の授業開始時にコメントを返すという形にしてしまったらと考え、数年やってみた。この授業は学生になかなか評判が良かったし、授業中も楽しそうだった。何より彼らの報告が面白かった。

この他にも、中国語でチャットができるようになれば大陸や台湾の学生とのチャットを組み込んだ授業、テレビ会議システムが使えるようになれば大陸や台湾の教室とテレビ会議システムで結んだ授業、映像処理が簡単にできるようになれば映画の字幕作成や吹替を行う授業など、新たな環境が現れるたびにそれを授業に取り込んできた。

また、新しい学びの形として、Web上での予復習に、クラスサイズ5名の中国語のみを使用する少人数会話授業を組み合わせた「チュートリアル中国語」や、それ

を大陸や台湾で行う現地チュートリアルの開発も行った。あわせて常に自分自身の中国語能力を確認し、その能力レベルにあった授業クラスを選択することができるようにするために、Webベースの中国語能力テストも作った。

私が中国語を学んだ1970年代は紙の教科書に別売のカセットテープ（これがべらぼうに高い）があるだけだった。当時は中国に留学するのも簡単ではなかったし、中国からの留学生も少なく、教室外で日常的に中国語に接する機会はほとんどなかった。もちろん中国語検定試験のような自分自身の中国語能力を測る目安もなかった。それでもネイティブスピーカー並みの中国語を身につけることができた人たちが少なからずいた。

今では学習者には様々な教材や学習機会が与えられている。また大学のキャンパスを歩けばいたるところから中国語が聞こえてくるし、街を歩いていても中国語が耳に入ってくる。大陸や台湾への旅行や留学も容易になった。

これだけ恵まれた環境の中で中国語を学んでいる今の学生はさぞや中国語の能力が飛躍的に伸びているだろうと思いきや、必ずしもそうではない。環境を十分に活かしてめざましい伸びを見せる学生もいる一方、伸び悩む学生も多い。そうすると、どんな学生が伸び、どんな学生が伸び悩むのかが気になってくる。

台湾での現地チュートリアル（短期研修）に参加した学生に毎日学習日記を書いてもらい、伸びた学生と伸び悩んだ学生を比較したことがある。成績が伸びた学生に共通したのは、1）空回りしない学習意欲と楽観性、2）教室で学習したことと教室外での活動を結びつけること、であった。要するに楽しく生き生きと学んでいた学生は伸びたという、ある意味当たり前のような結果だった。

実は他のことを比較した際にも同じような結果になったことがある。私たち外国語教育者が真剣に取り組まなければならない課題に機械翻訳をめぐる問題がある。機械翻訳は役に立つのか立たないのか？中国語の読解問題を1）原文のみ、2）機械翻訳されたもののみ、3）両者を併記したものの3バージョン作り、中国語既修者と未修者にそれぞれ解いてもらった。1）では大差があったが、2）3）の平均得点は既修者と未修者でほぼ同じだった。しかし得点にはばらつきがあった。機械翻訳つきでも得点が上がらなかった未修者がいる一方で、機械翻訳つきになると飛躍的に得点が上がり、中国語検定試験2級レベル以上になった者もいた。両者の違いはどこにあったのか？得点の上がった学生は想像力を駆使して楽しんで問題を解いていた。得点の上がらなかった学生は、意味が通じない機械翻訳文にただただイライラしていたようだ。つまり、ここでも楽しんで積極的に対象とかかわろうとする姿勢が大切だということが分かる。

あらためて考えてみると、これまで私が作ってきた教材や方法は、実はすべて自分が楽しく（そしてちょっと楽に）授業ができることを目的としていた。最新の教材シリーズの名称は『快乐学汉语・说汉语』だが、『快乐教汉语・学汉语』の方がより適切かもしれない。楽しく生き生きと教え、楽しく生き生きと学んでもらう。これを取りあえずの結論としておこう。

4級日文中訳問題ワンポイント・アドバイス

『中国語の環』編集室

2013年度（第80、81、82回）、2014年度（第83、84、85回）4級筆記問題の第5問の中から15題を選んで問題文と解答例を掲げ、ポイントはどこにあるのか、陥りやすい誤りはどこかなどを簡単に記してみました。2015年度以降の問題については、協会編『中検4級試験問題・解答と解説』（白帝社刊）を参照してください。

- (1)わたしは少し疲れました。

我有点儿累了。 Wǒ yǒudiǎnr lèi le.

ポイント 好ましくない性質や状態について「少し」と言うときには、“有点儿”を副詞として用います。

- (2)この近くにレストランはありますか。

这附近有饭馆(儿)吗? Zhè fùjìn yǒu fànguǎn(r) ma?

ポイント 「どこどこに何々がある」「誰それがいる」と言うときには、「場所＋“有”＋モノ・ヒト」の文型を用います。

- (3)彼はきのう学校に来ませんでした。

他昨天没来学校。 Tā zuótiān méi lái xuéxiào.

ポイント 「来ませんでした」という過去の事実についての否定には、“没”または“没有”を動詞の前に用います。完了形の否定は動詞の後に“了”を付けないことに注意しましょう。

- (4)きょうはきのうほど寒くありません。

今天没有昨天冷。 Jīntiān méiyǒu zuótiān lěng.

ポイント 「AはBほど…でない」という比較文の否定形には、「A“没有”B…」の文型を用います。“昨天冷”は“昨天那么冷”と“那么”(nàme)を加えてもかまいません。

- (5)その服はきれいだし安いです。

那件衣服又漂亮又便宜。 Nà jiàn yīfú yòu piàoliang yòu piányi.

ポイント 「…だし…だ」という並列関係を表すには、“又…又…”または“既jì…又…”の文型を用います。

- (6)この机はそれほど高価ではない。

这张桌子不太贵。 Zhè zhāng zhuōzi bú tài guì.

ポイント 「それほど…ではない」という部分否定は“不很…”でもかまいませんが、“不太…”の方がよく使われます。

- (7)海南島は中国の南の方にある。

海南岛在中国的南边(儿)。 Hǎinán Dǎo zài Zhōngguó de nánbian(r).

ポイント 「…は…にある／いる」と言うときには、「存在するモノ・ヒト＋“在”＋場所」の文型を用います。「…に…がある／いる」（場所＋“有”＋モノ・ヒト）との違いに注意しましょう。

- (8)彼女たちは歩きながら話をしている。

她们一边走，一边谈。 Tāmen yìbiān zǒu, yìbiān tán.

ポイント 「…しながら…する」は“一边(儿)…一边(儿)…”を用います。略して“边…边…”としてもかまいません。“一面…一面…”(yímiàn…yímiàn…)とすることもできますが、やや硬い感じがします。

- (9)王先生はわたしたちに中国語を教えています。

王老师教我们汉语。 Wáng lǎoshī jiāo wǒmen Hànyǔ.

ポイント 動詞が2つの目的語を取る場合は、「動詞＋間接目的語(…二)＋直接目的語(…ヲ)」の語順です。

- (10)わたしは5時から8時までアルバイトをします。

我从五点到八点打工。 Wǒ cóng wǔ diǎn dào bā diǎn dǎgōng.

ポイント 時間や場所について、「…から…まで」と言うには“从…到…”の形を使って表現します。

- (11)あなたたちのクラスにはどのくらいの生徒がいますか。

你们班有多少(个)学生？ Nǐmen bān yǒu duōshao (ge) xuésheng.

ポイント 「…に…がある／いる」ですから、「場所＋“有”＋モノ・ヒト」の文型を用います。“多少(个)”の代わりに“几个”を用いても文法的には誤りではありませんが、クラスの生徒数の聞き方としてはかなり不自然です。

- (12)わたしは中国語の本を2冊読みました。

我读了两本中文书。 Wǒ dúle liǎng běn Zhōngwén shū.

ポイント 動作・行為の完了を表す文です。目的語が数量化されているので、完了を示す“了”は動詞のすぐ後ろに置きます。

- (13)お母さんは食事を作っています。

妈妈在做饭呢。 Māma zài zuò fàn ne.

ポイント 進行を表すときには、「主語＋“正／在／正在”＋動詞＋目的語＋“呢”」の文型を用います。“正／在／正在”または“呢”の一方を省くことも可能です。

- (14)わたしはよくサッカーの試合を観ます。

我经常看足球比赛。 Wǒ jīngcháng kàn zúqiú bǐsài.

ポイント 頻度を表す副詞の“经常”は動詞の前に置きます。“经常”の代わりに“常”(cháng)、“常常”(chángcháng)なども使うことができます。

- (15)きのう大雨が降りました。

昨天下大雨了。 Zuótiān xià dà yǔ le.

ポイント 「雨が降る」「風が吹く」のような自然現象は“下雨”“刮风”(guā fēng)のように動詞を先に言います。“下大雨了”は“下了大雨”“下了大雨了”としてもかまいません。

植物(一) 樹木類

『中国語の環』編集室(U)

植物のうち樹木類の主なものを取り上げる。樹木の種類は日本と中国で微妙に異なるものも多く、名称もなかなか特定しにくいものが多い。

なかには、“岁寒，然后知松柏之后凋也”（歳寒くして松柏の凋むに後るを知る）の松柏の「柏」のように、ブナ科の落葉高木カシワではなく、コノテガシワと呼ばれる常緑の低木であったりするから厄介だ。

なお、樹木を数える助数詞は一律に“棵”(kē) または“株”(zhū) である。

いくつわかりますか？

以下はおよその目安です。

全部	40語以上	30語以上	20語以上
2級以上	3級レベル	4級レベル	準4級レベル

☐ 1. 柏樹	bǎishù	コノテガシワ。
☐ 2. 松樹	sōngshù	マツ。
☐ 3. 杉樹	shānshù	スギ。
☐ 4. 柳樹	liǔshù	ヤナギ。
☐ 5. 垂柳	chuíliǔ	シダレヤナギ。
☐ 6. 楊樹	yángshù	ハコヤナギ、ヤマナラシ。
☐ 7. 白楊	báiyáng	ハクヨウ、ポプラ。
☐ 8. 梧桐	wútóng	アオギリ。
☐ 9. 悬铃木	xuánlíngmù	プラタナス。“法国梧桐”(Fǎguó wútóng)
☐ 10. 榉樹	jǔshù	ケヤキ。
☐ 11. 樟樹	zhāngshù	クスノキ。
☐ 12. 枫樹	fēngshù	カエデ。
☐ 13. 槲樹	húshù	カシワ。
☐ 14. 槐樹	huáishù	エンジュ。
☐ 15. 刺槐	cìhuái	ニセアカシア。“洋槐”(yáng huái)
☐ 16. 白桦	báihuá	シラカバ。
☐ 17. 榆樹	yúshù	ニレ。
☐ 18. 山毛榉	shānmáo jǔ	ブナ。
☐ 19. 榕樹	róngshù	ガジュマル。
☐ 20. 合欢	héhuān	ネムノキ。“马缨花”(mǎ yīnghuā)
☐ 21. 菩提樹	pútíshù	ボダイジュ。
☐ 22. 栎樹	lìshù	クヌギ。“橡樹”(xiàngshù)

☐ 23. 柚木	yóumù	チーク。
☐ 24. 雪松	xuěsōng	ヒマラヤスギ。
☐ 25. 橄榄	gǎnlǎn	オリーブ。
☐ 26. 肉桂	ròuguì	ニッケイ。
☐ 27. 月桂	yuèguì	ゲッケイ。
☐ 28. 朴树	pòshù	エノキ。
☐ 29. 檀香	tánxiāng	ビャクダン。
☐ 30. 冷杉	lěngshān	モミノキ。
☐ 31. 榛树	zhēnshù	ハシバミ。
☐ 32. 漆树	qīshù	ウルシ。
☐ 33. 七叶树	qīyèshù	トチノキ。
☐ 34. 桃树	táoshù	モモ。
☐ 35. 李树	lǐshù	スモモ。
☐ 36. 柿树	shìshù	カキ。
☐ 37. 栗子树	lìzishù	クリ。
☐ 38. 樱花	yīnghuā	サクラ。
☐ 39. 樱桃	yīngtáo	オウトウ。
☐ 40. 梅树	méishù	ウメ。
☐ 41. 银杏	yínxìng	イチョウ。“公孙树”(gōngsūnshù)
☐ 42. 梨树	líshù	ナシ。
☐ 43. 杏树	xìngshù	アンズ。
☐ 44. 核桃树	hétaoshù	クルミ。
☐ 45. 苹果	píngguǒ	リンゴ。
☐ 46. 橘子树	júzhishù	ミカン。
☐ 47. 枣树	zǎoshù	ナツメ。
☐ 48. 枇杷	pípa	ビワ。
☐ 49. 石榴	shíliú	ザクロ。
☐ 50. 椰子	yēzi	ヤシ。
☐ 51. 桑树	sāngshù	クワ。
☐ 52. 山楂	shānzhā	サンザシ。“山里红”(shānlíhóng)
☐ 53. 香椿	xiāngchūn	チャンチン。
☐ 54. 棕榈	zōnglǚ	シュロ。
☐ 55. 冬青	dōngqīng	モチノキ。
☐ 56. 香蕉	xiāngjiāo	バナナ。
☐ 57. 大蕉	dàjiāo	バショウ。“芭蕉”(bājiāo)
☐ 58. 桂花	guīhuā	モクセイ。“木樨”(mùxī)
☐ 59. 金桂花	jīnguīhuā	キンモクセイ。
☐ 60. 银桂花	yínguīhuā	ギンモクセイ。

絵で見る慣用語(11)

絵・張恢

文・『中国語の環』編集室



送人情 sòng rénqíng

(贈り物をしたり便宜を図ってやったりして) 人の歓心を買う, 恩を売る。
他是靠送人情被录用的。彼は袖の下を使って採用されたのだ。



随份子 suí fēnzi

(慶弔の意を表すために) 皆で金銭を出し合う。また、金銭を持って他人の家に行って祝意や弔意を表する。“出份子”(chū fēnzi) とも。

到朋友家去随份子。友人の家にお祝い(またはお悔やみ)に行く。



太岁头上动土 Tàisui tóushang dòng tǔ
強い者に楯つく; 身の程知らずな事をする。“太岁”は木星に相当する古代の星。太歳。また太歳神。迷信で凶神とされてきた。



随大溜(suǐ dàliú) (r)

大きな流れに従う; 大勢に順応する。
“随大流”(suí dàliú) とも。

随大溜儿, 不担风险。大勢に従い, 危険を冒さない。



抬轿子 tái jiàozi

みこしを担ぐ; おべっかを使う, へつらう。ちょうちん持ちをする。

为总经理抬轿子的人太多了。社長におべっかを使う人がわんさという。



掏腰包 tāo yāobāo

①自腹を切る。“腰包”は腰につける中国式の錢入れ。きんちゃく。

今天是他请客吃饭, 用不着你掏腰包。
きょうは彼のおごりだから, 君は払わなくてもいい。

②(人の懐中から)物を盗み取る。



讨生活 tǎo shēnghuó

生活の道を求める；暮らしを立てる。
生計を営む。

靠自己的本事讨生活。自身の特技に頼って暮らしを立てる。



剃光头 tì guāngtóu

丸坊主にそる；（試験で）零点を取る。
（試合で）全敗する，零敗する。

我们队给对方剃了个光头，三比0。わがチームは3対0で相手チームに完勝した。



贴标签(tǐe biāoqiān(r)

ラベルを貼る；（既成観念や偏見をもって）人にレッテルを貼る。

评价人物，不能贴标签儿。人を評価するのに，偏見をもってレッテルを貼ってはならない。



踢皮球 tī píqiú

ボールを蹴る；転じて，互いに責任逃れをする。たらい回しにする。

要纠正办事拖拉，踢皮球的作风。事をだらだらと引き延ばし，責任をなすりつけあう仕事ぶりを正さなければならない。



填窟窿 tián kūlong

穴を埋める；赤字の穴を埋める。欠損を補う。

借钱来填赤字的窟窿。借金をして赤字の穴埋めをする。



拖后腿 tuō hòutǔi

足を引っ張る；他人の成功や前進の邪魔をする。また，物事の進行を妨げる。
“扯chè后腿”“拉lā后腿”とも。

他非但不帮忙，还给我拖后腿。彼は手伝ってくれないばかりか，わたしの足を引っ張るのだ。

“X没有YW”と“X有YW”

日本中国語検定協会理事・文京学院大学 魯 曉琨

“X没有YW”と“X有YW”は構文形式からみると、対称的な文型のようにですが、意味から考えると非対称的な文型です。

“X比YW”は比較文の基本形であり、Xが比較の主体、Yが比較の対象、Wが比較の結果となります。

“X没有YW”は“X比YW”の否定式で、教科書ではたいてい両者を同時に取り上げています。例えば、

(1)他没有我高。

(彼は私ほど背が高くない。)

(2)我做的工作没有他多。

(私がやった仕事は彼ほど多くない。)

(3)小李没有小王了解那里的情况。

(李さんは王さんほどその事情に詳しくない。)

(4)哥哥没有弟弟那么喜欢打网球。

(兄は弟ほどテニスが好きではない。)

なお、“X没有YW”はWの前によく“那么”或いは“这么”を用いて程度を表します。特にWがマイナスの意味である場合、“那么”或いは“这么”が必須となります。例えば、

(5)她没有姐姐那么笨。

(彼女はお姉さんほど不器用ではない。)

(6)他没有哥哥这么矮。

(彼はお兄さんほど背が低くない。)

“X没有YW”はWにおいては、XはYに及ばないという意味を表します。“X没有YW”の例文はどれも“X比YW”に変換することができます。それは“X比YW”も“X没有YW”もXとYの差異を示しているからです。

しかし、“X有YW”はXとYの差異を示しているのではなく、XとYは差異がないことを示しています。(1)(2)を(1)′(2)′に変換すると、その違いが分かります。

(1)′ 他有我高。

(彼は私と同じぐらい背が高いです。)

(2)′ 我做的工作有他多。

(私がやった仕事は彼と同じぐらい多いです。)

例(1)(2)は“X有YW”に変換することができますが、(3)(4)の場合は“X有YW”には変換することができません。

(3)′ * 小李有小王了解那里的情况。

(4)′ * 哥哥有弟弟那么喜欢打球。

なぜ、(3)(4)の“X有YW”が成り立たないのでしょうか。それは“X有YW”の意味的な範囲を超えたからです。“X有YW”はXとYが属性、数量において同様或いは類似であることを表します。つまり、“X有YW”の意味的な範囲は両者の属性、数量の比較に限定されています。例(1)′では、XとYの属性が類似であり、(2)′ではXとYの数量が同様であることを表しています。一方、(3)′(4)′では、WはXとYの属性でもなく、数量でもないため、“X有YW”という文型を用いることはできません。

もう少し、例文を見てみましょう。

(7)我有他跑得快。

(私は彼と同じぐらい速く走れます。)

(8)他有他父亲那么肯干。

(彼はお父さんと同じぐらいよく働いています。)

また、“X有YW”はXとYを比較する際、Yを基準にします。XがYの基準に達することによって、両者は同様或いは類似となります。例えば、(7)では“跑得快”においては、“他”を基準に、“我”は“他”のスピードに達していることを言っています。(8)では“肯干”においては、“他父亲”を基準に、“他”は“他父亲”のレベルに達していることを言っています。

“X有YW”では、YがXの基準であるため、YはXの基準となるものであるなら同類には限りません。例えば、

(9)她女儿有桌子这么高了。

(彼女の娘は机ぐらいの背丈になった。)

(10)北海道的甜瓜很大，有一个足球那么大。

(北海道のメロンはとても大きく、サッカーボールぐらいの大きさがあります。)

例(9)では、“桌子”を基準に、“桌子”の高さと同じぐらいだということで“他女儿”の背の高さを説明し、(10)では、“足球”を基準に、“足球”の大きさと同じぐらいだということで“甜瓜”の大きさを説明しています。このように、主体XはYを基準にイメージ化されます。

ここまでは、Yは客観的な基準として提示されたが、Yは比喩体として提示され、誇張的にXがYと同じぐらいだという場合もあります。例えば、

(11)她的腰有磨盘那么粗。

(彼女の腰は石臼ほど太い。)

(12)她的腰有杨柳那么细。

(彼女の腰は柳の枝ほど細い。)

彼女の腰がいくら太くても石臼ほどにはならず、いくら細くても柳の枝ほどにはなりません。ただ、話し手は彼女の腰の太さまたは細さを石臼または柳の枝に喩え、その程度が甚だしいことを言いたいわけです。

数詞成語と成語の図像化

日本中国語検定協会監事・筑波大学(非) 大塚秀明

身近なものを説明するとなると意外に難しい。日本語でも中国語でも同じである。例えば、漢数字、アラビア数字、ローマ数字など表記は複数あるが、ことばとして、中国語の“三”の意味を記述するのに《新华字典》では“数目字”(数字)とあるだけで説明はない。中型辞書である《现代汉语词典》になると“三”には数と品詞が示され“二加一后所得的数目”(2に1を加えて得られた数)という説明がある。このNプラス1という説明は“二”から“十”までに使われている。いわば原義である。ただ10までの数字のいくつかには派生義が示されているものがある。“三”には“表示多数或多次”とあり、“多数”は定語(連体修飾語)としての、“多次”は状語(連用修飾語)としての用法を示している。同じく“八”にもあるが、“九”には“表示多次或多数”とあり、“多数”と“多次”が逆になっている。何か特別な意味があるのか、次の第8版で統一してもよいのではないかと思う。

《现代汉语词典》には、こうした数字の派生義の用例に四字成語が多くみられる。“三缄其口” sānjiān-qíkǒu「みたびそのくちをカンす」と訓読し「口には三重の封をする」という原義から「何度もことばを慎む、一言もしゃべらない」の意である。また“九死一生” jiǔsǐ-yīshēngは日本語の「九死に一生を得る」の元になっている成語で、「9回死にそうになり」と考えればこの“九”は状語用法であり「何度も生死の瀬戸際をくぐり抜け」の意味であるから“九”の派生義も分かりやすい。

字義の説明に原義しかない数字にも派生義は見られる。“四”には“四…八…”の項目があり、類義の二つのことばを入れて“表示各方面”の意味を示すとある。日本語の「四方八方」を考えれば分かりやすい。また“七”には“七…八…”があり、類義あるいは反義の二つのことばを入れて“表示多或多而杂乱”(多いあるいは多く乱雑であることを表す)とあり“七手八脚” qīshǒu-bājiǎo (多くの人が忙しく働く)や“七长八短” qīcháng-bāduǎn (長短ふぞろいなさま)など数多くの用例が見られ、造語力の大きさが見て取れる。数字の呼応は帰納され抽象化されたもの以外にも“五湖四海” wúhú-sìhǎi (全国各地)、“十全十美” shíquán-shíměi (完全無欠である)などがあり、また呼応ではなく数字が1字だけ使われている四字成語もある。“心无二用” xīnwú-èryòng (心を二つの事に用いない→一つの事に専心する)や“六亲不认” liùqīn-bùrèn (どんな親類も認めない→どの親類とも付き合わない)など“二”も“六”も字義の記述は原義だけだが、この例のなかでは派生義である。

中国語の数詞は、閉じられている品詞と言える。“半”“百”“千”“万”なども数詞であり、こうした数詞は成語の中では派生義として使われることが多い。

取り立てて言うほどのことはないかもしれないが、数詞が使われている成語を「数詞成語」と呼ぶことにして、以下小論を進める。

映像があって、それをことばで表す。四字で構成すると成語になる。ロウソクの火に向って蛾がまっしぐらに飛んでゆくさまを“飞蛾扑火” fēi'é-pūhuǒとし、流れる川をゆく舟のへりに剣を水中に落とした場所の印を刻み付ける情景を“刻舟求剑” kèzhōu-qiújiànとする。前者は「飛んで火にいる夏の虫」の意で、後者は変化を知らぬ融通のきかないことをいう。こうした映像と四字成語がほぼイコールになる(すなわち映像から容易に四字成語が生まれ、四字成語から容易に映像が浮かぶ)場合もあるが、映像と四字成語が直接結びつかない場合もある。水がはられた大きな瓶に落ちた子どもを助けるため瓶の側面に石で穴をあけた子どもの様子を“情急智生” qíngjí-zhìshēng (窮すれば通ず)と4字で表現し、龍の絵画に囲まれ龍が大好きな男の家に本物の龍が現われると男が慌てふためく様子を“叶公好龙” yègōng-hàolóng (言うことと実際とが異なる)と文字化するが、前者は司馬光の故事を知らないとい図像と文字が結びつかず、後者の4字には慌てふためく文字は使われていないが、図像にはその様子はなくてはならない。故事成語から物語を知り、それを図像化した四字成語の理解には学習が必要である。

唐突ですが、ここで問題です。次の絵を表す数詞成語を答えなさい。

- ①投げた1個の石が2羽の鳥に当って手に入れる絵：この1と2は原義である。
- ②猿使いが指で猿たちに餌を3つ、4つと示している絵：3と4の順序は問わない。
- ③敵国の歌が四方八方から聞こえてくる絵：4は必ずしも東西南北ではない。
- ④両肘と両膝と額を地面につけて拝んでいる絵：地に接している点は5つである。
- ⑤牛9頭、男が1本の毛を手をしている絵：成語の意味は9と1の対比である。

以上は図像の中に数が探せるし、日本語にも中国語の4字を音読して、同じ意味で使われている成語がある。こうした成語の受容は日本語を豊かにしている。

- ⑥井戸水を汲む桶、上がる桶が7個、降りる桶が8個ある絵：7と8の呼応である。
- ⑦8人の仙人が法器を手にし船で海を渡る絵：自分の法器で海を渡る絵もある。
- ⑧3人の武将が粗末な家を訪れ、家の奥には人が休んでいる絵：3人の3は原義。
- ⑨蛇に足を描き加えている絵：“画蛇添足” huàshé-tiānzúは数詞成語ではない。
- ⑩長い板が3枚と短い板が2枚からなる棺おけの絵：底面と側面と上下である。

以上の成語はそのままの文字では日本語に受容されていない。

解答 ①一石二鳥 yīshí-èrniǎo：一石二鳥。②朝三暮四 zhāosān-mùsì：朝三暮四。③四面楚歌 sìmiàn-chǔgē：四面楚歌。④五体投地 wǔtǐ-tóudì：五体投地。⑤九牛一毛 jiǔniú-yīmáo：九牛の一毛。⑥七上八下 qīshàng-bāxià：心が乱れ不安になる。⑦八仙过海 bāxiān-guòhǎi：自分の能力・特技を発揮する。⑧三顾茅庐 sāngù-máolú：三顧の礼を尽くす。“三顧”の“三”はみたびの意。⑨多此一举 duōcǐyījǔ：よけいなことをする。⑩三长两短 sāncháng-liǎngduǎn：不慮の災い、多くは人の死を指す。棺おけを用いて「死亡」を示す図像だけでなく、2膳の箸の1本が折れて、長い3本と短い2本を描く図像もある。箸が折れるのは不吉であり、2膳が夫婦を表しその1膳の1本が折れている図は夫婦の死別が暗示される。

図像から成語を読み解くことはなかなか奥が深い。

いらっしやいませ！

日本中国語検定協会理事・中京大学 張 勤

“没有！”は長い間中国のサービスの悪さの象徴だった。“铁饭碗”を手にしていた店員は仕事をする情熱が低く、客から商品を尋ねられるとよく“没有！”と答えてサボっていたからだ。いつの間にかこの“没有！”の評判もあまり聞かなくなり、代わりに店員たちが大きな赤いタスキをかけ、開店時に店頭に立ち並び、大声で“欢迎光临！”を唱えるようになった。

ところで、この日本の商店街などでよく耳にする「(ようこそ) いらっしやいませ」を彷彿させる“欢迎光临！”は、どうも日本語と趣が異なるようだ。まず何より、

(1) 欢迎你们！

(2) 欢迎莅临指导！

(3) 欢迎参观！

(4) 欢迎品尝！

のように、「欢迎」＋～の形式、すなわち何か目的語を従わせる使い方がふつうなわけである。“欢迎”が動詞なので、主語もプラスして、“我们欢迎你们！”の形式でもごく自然に言える。

このように、中国語の“欢迎光临！”は、掛け声としての「(ようこそ) いらっしやいませ」と異なって、かなり冷静に“(我们) 欢迎 (您的) 光临 ((私どもは) (そなたの) ご来訪を歓迎します)”と述べているのである。この“欢迎光临！”は相手がまだ来ていなくて、来るのを心待ちしているという場合にも使える。また次の例のように長い目的語を伴う場合も多い。

(5) 欢迎你来参加我们的工作。

(6) 我们热忱欢迎有识之士积极撰稿，让我们共同办好这块促进学术交流的园地。

中国語では、話し手の気持ちを表す動詞の多くは“欢迎”と同じような使い方をする。初級の段階で必ず勉強する“喜欢”がその一つであり、また“希望”“期待”“愿意 (～したいと思う)”“情愿 (自分から進んで～する)”“恭喜 (おめでとう)”などがいずれもそうである。

(7) 我希望今天的报告能抛砖引玉，引起学界同仁更多的关注和争鸣。

(8) 我们期待客户提出宝贵的意见，以帮助我们不断提高新产品的质量。

(9) 我愿意接受大家的建议。

(10) 我们情愿退到一边去，免得招来麻烦。

(11) 恭喜你乔迁新居！

では、「(ようこそ) いらっしやいませ！」と同じ感覚の言い方ができないのか。それはできる。“欢迎！欢迎！”と重ねて言えば、臨場感のある掛け声の雰囲気が出てくる。そういえば「おめでとうございます！」も“恭喜！恭喜！”となる。

中国語学習

会田洋子

先月サイパンに旅行に行きました。聞こえてくるのは中国語ばかりで、「ここは一体どこ？」と思いました。免税品店の表示も中国語・英語でホテルにいても海岸に遊びに行っても中国人だと思われているのか、皆中国語で話しかけてきます。中国も北京・上海・広州など様々な場所から来ているので「発音悪いね!」とは今回は言われませんでした。英語プラスoneで始めた中国語がこんなに役に立つとは驚きました。

約10年ほど前独学でテレビ講座を見て中国語を始めました。英語の他に何か出来たらいいなあという漠然とした思いからでした。毎日ビデオに撮った講座を見て、ピンイン・声調も分からないので「まねる」練習をしていました。「まねる」イコール「学ぶ」でした。簡体字も同じです。こちらは日本語の漢字と微妙に違うものなどありますが、何回も「まねて」書いて練習しました。

2年間くらいテレビで学習してラジオ講座も聴くようになりました。段々と欲が出て来ました。検定試験を受けることなど当初は考えもしませんでした。好きでやっていたらそれでいいと思っていましたが、独学で学習していると「知識のデコボコ」があるのに気が付き、デコボコを平均化するため検定試験の受験をしました。過去問を解いてみると苦手分野がよく分かるので、日頃避けて通る学習箇所をおさらいしました。受験も良い学習のマイルストーンになりました。

中検3級に合格したらもうこの辺でいいかなと思いましたが、どうやら中国語学習にはまってしまいました。協会の通信講座も4回程お世話になりました。学習が進むにつれ文化・社会背景を知らないとう理解が難しいような場面に出くわし、ラジオ講座テキストに載っていた「中国百科検定」への寄り道をしました。学校では習わなかったものの、当然知っておくべき歴史的背景などが多いと感じました。

語学学習はその国の地理・政治経済・歴史・文化なども理解して初めて意味があると思います。「中国に駐在する・中国人を配偶者にする・クライアントに中国事情を説明する」などといったことには全く無関係ですが、一通り学習したことは自己満足かも知れませんが意義があったと思います。新聞やニュースで中国関連記事を見ても今までより理解できるようになり面白くなりました。

中国語学習も、百科検定準備も、毎日少しずつ続けました。なるべく触れる機会を多くした方がよいと思います。「継続は力なり」に尽きると思います。現在ゆっくりではありますが、『中国語重要文例集』（上野恵司編、白帝社）をCDに合わせて音読したり、協会の一曰講習会で范建明老師から教えていただいた速読のまねごとをラジオ講座のほかにしています。速読にまでは私の能力では出来かねますが、CDに合わせてオーバーラッピング・シャドーイングを無理のない範囲で毎朝続け

ています。いつか検定試験2級を受験したいと願っています。

サイパンの話に戻りますが、実戦で中国語を使って通じる・相手の言っていることが分かるというのは励みになります。下手でも完璧でなくても構わない！実際に話してみる……モチベーションが上がりました。ある程度のコミュニケーションがとれる喜びを味わいました。また明日からも頑張ろうと気持ちも新たになりました。英語の学習も細々と続けていますので、機会があったら、英中日のボランティア通訳をしたいと思います。

中国語学習は楽しい

安河内 清徳

中国語の勉強を始めて4年目になり、やっと片言の会話ができるようになりましたが、まだとっさに表現が出てきません。単語や決まり文句をもっと暗記する必要性を感じるものの、69歳の頭では覚えるのになかなか時間がかかります。しかし、言葉は使って初めて身に付くと思うので、中国人を見たら積極的に話しかけることを心掛けています。

先日、旅行をした香川県の栗林公園で中国語を話している2人の婦人を見かけたので、中国語で話しかけてみました。“你们是中国人吗？”と尋ねると台湾人だとわかりました。そこで、台湾語は普通語と違うと思い、即座に“你们说英语吗？”と再度尋ねると“对”と返事が来たので、英語に替えて会話を続けました。何度も日本に来たことがあるとのことで、その理由を尋ねると、日本の文化や伝統が好きなので何度も来たいのだということがわかりました。

このような内容を全て中国語でやり取りができることを目指して、学習し続けようと決意を新たにしたところです。

『読者の広場』への投稿を募集しています。中国語に関すること、検定試験に関することなど、400字～1,000字程度でお寄せください（Eメール、郵便ともに可）。採用された方には、記念品を進呈します。

なお、ご投稿いただいた原稿を掲載するにあたり、編集室側で若干の加筆・修正をさせていただく場合がございます。予めご了承ください。